

第7回諏訪湖イベントひろば基本計画専門委員会 会議録

○ 日 時

令和3年7月28日（水）午後1時30分～午後3時

○ 会 場

諏訪市役所 5階 大会議室

○ 出席者

＜諏訪湖イベントひろば基本計画専門委員＞

平尾勇委員長、林直樹委員、今井晴彦委員、浅井学委員、五味武嗣委員、
北原弘子委員、小針知栄美委員

＜オブザーバー＞

長野県諏訪地域振興局、諏訪圏工業メッセ実行委員会、リビルディングセンタージャパン
＜運営支援＞

信州地域デザインセンター、八千代エンジニアリング(株)

＜事務局＞

後藤副市長、前田企画部長、寺島企画政策課長、下澤企画政策係長、
茅野企画政策係主査、前田企画政策係主査

○ 会議概要

1 開会

（前田企画部長）

- ・これより第7回諏訪湖イベントひろば基本計画専門委員会を開催する。本日、五味嗣夫委員が欠席となっている。
- ・傍聴の希望がある。許可してもよいか。
（※傍聴希望者入場）

2 副市長挨拶

（後藤副市長）

- ・皆さんこんにちは。副市長の後藤でございます。
- ・委員の皆様方には、お忙しい中、第7回諏訪湖イベントひろば基本計画専門委員会にご出席をいただきありがとうございます。
- ・令和元年度から協議をいただいていた専門委員会も、いよいよまとめのタイミング。
- ・本日は、パブリックコメントを踏まえた基本計画（案）の最終協議をして、まとめたものを市長に対しご報告をいただくこととなる。
- ・忌憚のない協議、よろしくお願いいたします。

(前田企画部長)

- ・それでは協議に入る。進行は平尾委員長にお願いしたい。

3 協議

(1) 諏訪湖イベントひろば基本計画（案）について

(平尾委員長)

- ・忌憚のない意見をいただき、内容を詰めていきたい。
- ・(1) 諏訪湖イベントひろば基本計画（案）について、説明を願う。

(寺島企画政策課長)

※資料1に基づき、パブリックコメントに対する回答の方向性を説明

(茅野企画政策係主査)

※資料2に基づき、パブリックコメントの意見及び回答の代表例を説明

※資料4に基づき、計画（案）の修正点を説明

※資料3に基づき、計画（案）の要点及び報告内容を説明

(平尾委員長)

- ・資料1から資料4まで説明をいただいた。資料4が計画（案）の本体である。
- ・資料1では考え方の概要を簡潔にまとめていただいた。
- ・資料2はパブリックコメントの中身。意見よりも回答の分量が多いようなところもあり、かなり丁寧な回答しているという印象を持った。これについても先ほどの5点に沿って説明をいただいた。
- ・資料3は市長に報告する内容。必要な要素が組み込まれている。これを市長に報告する。
- ・質問や意見をいただきたい。

(A委員)

- ・市場調査を民間企業と市民向けに実施し、純粹にその市場調査の結果を反映したような内容になっている。
- ・行政の所有地について議論をすると、あれが欲しいこれが欲しいという要望がどうしても出てくる。今回は、市場性を重視して、現実を最大限見据えた計画となっている。
- ・箱物として何を作るのか、どんなものを作るのかということに注目されがち。箱物は作るが、どういう形で活用するかという道筋は提示できたと思っている。

(B委員)

- ・我々も納得した上で計画（案）ができている。これに対してどうしろということはない。
- ・土地の成り立ちや諏訪の歴史を考えていけば、やはり産業振興を機能の軸とするというところに自然にたどり着く。大事にしなくてはいけないコンセプトだと思っている。
- ・環境、自然にも配慮することは必要だが、工業による仕事があり、そこに人が集まって生活ができる。そのために、ひろばを象徴的な場所にしていける計画になったと思う。

(C委員)

- ・今回、民間企業がある程度関心を持ってきているということはわかった。
- ・その中で、民間と諏訪市がうまく連携してやっていくという方向性がある程度決まったということが一つの成果。

- ・今後配慮しなくてはいけないことがいくつかある。パブリックコメントでも出てきたが、SDGsや環境を含め、経済的に成り立つか、持続可能性はどうか、市民の参画がどこまで担保できるのか、配慮する事項が書かれたことはよい。
- ・実際に事業を動かしていこうとすると、かなりの財源が必要。諏訪市の単費ではないと思うが、そこまではまだ決まっていない。
- ・民間企業の方が参画するということになると条件が出てくるが、これからの課題になってくると思う。
- ・この計画を形にしていくことを市には期待したい。

(D委員)

- ・専門委員会でも様々な意見が出た。そういったものをまとめてあると思う。
- ・今後の方針について、具体的条件設定をするために、大きく2つの事前検討が必要とのこと。令和3年度から令和4年度、2年かけて検討して、十分な結果を得た上で具体的条件設定を令和5年度から開始することを提言している。以前にはなかった年の表記がされてはいるが、実際に事業として動き出すのはいつになるのか。
- ・財源確保等多様な課題があるので、ここまでの表記になっているとも思うが、その意図を教えてください。

(茅野企画政策係主査)

- ・より具体的な年数表記も検討したが、財源確保に加え様々な課題がある関係から、今回この表現に留めている。

(A委員)

- ・この規模の公共事業を単費でやることは無理。色々な支援を得なくてはいけない。そうすると相手があってこそ。見通しが見つからない部分もあると思う。

(E委員)

- ・何となく建物が箱だというイメージがあると思うが、ひろば全体も箱となると思う。
- ・ハード先行よりはソフト。何をしたいのか、何をするのかということを考えていけば、有効的に活用できると思う。
- ・逆に箱だけ先行していくと、それを使ってどうするかという考え方になってしまう。
- ・どのようなコンテンツを提供できるのかということを考えて進めてもらえればと思う。

(茅野企画政策係主査)

- ・何をやりたいかというところはやはり重要。
- ・今後、産業振興のためにはどのようなコンテンツが必要なのか検討が必要。整備前においても、実施していかななくてはならない内容もあると想定している。
- ・どのようなスケジュールでどのようなやり方なのか、今後検討していく予定。

(F委員)

- ・どちらかという観光に携わっている立場からすると、産業が諏訪にとっての基軸というのはわかるが、産業振興という言葉が全面に出ていたので、関係が薄いと考えていた。
- ・しかし、産業振興、コミュニティ、観光、医療・健康とその掛け合わせという考えが出てくると、私でも考えていけると思うようになってきた。期待とともに、これからも一緒に考えていくことができると思った。

(G委員)

- ・サウンディング調査等により様々な民意をいただいて、こういう形になってきた。
- ・本当に注目される場所であり、諏訪市内だけではなく、広域、県内でも重要な場所になっていくと思う。
- ・材料は出揃った。しっかりとしたぶれないコンセプトを作って総合的にプロデュースしていくことが重要と感じている。
- ・民間企業、市民、行政、皆全員が賛成ということは難しいが、それぞれが納得いく形で全体イメージを最後まで崩さない必要がある。
- ・産業振興、工業のあり方も、これから 10 年先は今とは大きく変わっていく。持続可能な社会ということをどの企業も意識して取り組んでいる。そういったことを見据え、これからの未来の生活、社会の在り方というものがプロジェクトに組み込まれていくことが望ましいと思う。
- ・諏訪には多くの知力、歴史があり、素晴らしい人間力があることはご存知のとおり。諏訪湖にしても、私たちが意識している以上に非常に素晴らしい資源。ひろばはそこに隣接している。改めて私も市民として、ワクワクする気持ちが当初よりも高まってきた。

(平尾委員長)

- ・議論をし尽くした上での報告書であることから、この内容で市長には報告をしたいがよろしいでしょうか。
- (※異議なし)
- ・ご了解をいただいたということで進めたい。
- ・進行を事務局にお返す。

4 報告

(1) 諏訪湖イベントひろば基本計画（案）について

(前田企画部長)

- ・貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございます。
- (※市長入室)
- ・専門委員会を代表して、平尾委員長から諏訪市長に対して報告をお願いいたします。

(平尾委員長)

- ・諏訪湖イベントひろば基本計画（案）検討結果の報告をいたします。令和元年 10 月 9 日から本日まで、諏訪湖イベントひろば活用の基本的な考えを示す「諏訪湖イベントひろば基本計画（案）」について、検討をして参りました。この計画は、民間活力導入の可能性を探る、諏訪湖イベントひろば活用可能性調査の結果を十分に反映したものとなっております。別記の形で 4 点、機能、建屋の取扱い、スキーム、今後の方針について詳細を簡潔にまとめています。これらを含めた報告書全体を、本日、市長に報告をするものです。今後ともこの実現に向けて、ぜひとも、鋭意努力されることを期待しているところでございます。
- (※資料 3、資料 4 を基に平尾委員長から金子諏訪市長に結果報告)

(前田企画部長)

- ・ありがとうございました。
- ・諏訪市長金子からご挨拶がございます。

(金子諏訪市長)

- ・諏訪湖イベントひろば基本計画専門委員会委員の皆様には、平尾委員長の下、令和元年10月9日から長期間にわたる検討をいただきましてありがとうございました。
- ・この間、思いがけない新型コロナウイルス感染症の感染拡大もあり、皆様にも新たなご苦労をいただいたものと承知している。
- ・諏訪湖イベントひろばというのは、過去に幾度となく様々な活用について検討をされてきた、市の中心市街地にある重要かつ優良な可能性を秘めた大事な土地である。私としても、市長に立候補するときから、この活用について大きな課題と位置付けてきた。
- ・平成31年3月には「旧東洋バルヴ諏訪工場跡地活用基本構想」を策定し、今後の活用の方向性「産業振興・技術革新・観光振興・雇用拡大の活動拠点ゾーン」というコンセプトを設定するとともに、民間活力を導入した整備と運営を目指すことを示した。これに基づき、この基本計画の検討をしていただいた。
- ・今回は民間活力の導入の可能性を探るため、市場調査の結果を反映いただいた。たくさんの民間事業者の方にエントリーをいただき、様々なアイデアをいただいていることは私も承知をしている。
- ・民間の皆様がどのようなものを導入したいと思っているのか、どのようなものだったら可能性があるのかという考えやご意見を把握できたことは大きな意味があった。
- ・現在、第六次諏訪市総合計画の策定中であるが、地方創生の観点からもこの地域に住む、魅力を感じて人が来る地域になるためには、ここで生活している人たちが仕事をして、その環境の中で暮らしていくことが基本。産業は大事な中核的な位置付けである。
- ・諏訪にとって中核的な産業であるものづくり。これを主軸にするということを明確にいただいた。
- ・7haある湖畔の一等地。諏訪湖周では、下諏訪町の漕艇庫が新しくなり、赤砂崎に公園ができた。岡谷市にも公園が整備をされており、サイクリングロードも整備が進んでいる。スマートインターチェンジも着工しており、順調に進めば2年後に完成する。
- ・この地域一帯の中において、湖畔に残された最優良地の広大な土地がひろばである。
- ・大きな建屋に囚われて、建て直すことがリフォームと考えている方もいたが、この地域の戦後における産業の核を作ってきた地であるということは大切にしながらも、これから未来を見据え、自由な発想の中で、新たなものが出現していくことがふさわしいのではないかと考えている。
- ・何事においても、見た目の外枠ということではなく、その中身であるコンテンツが大事だと考えている。小さく産んで大きく育てるという考えがあるが、そういった思いも委員の皆様にはしっかりととらえていただいている。
- ・この基本計画により、基本構想に続き検討の階段を一步上った。これから更に階段を一つ一つ上がって、実現に向けて動かなくてはいけない。必要な機能の効果を発揮できる体制を整えながら、目標に向かって、さらに前進をしていきたい。

- ・あまりゆっくり構えているという気持ちは私自身にはない。しかしながら、今年度からスタートした駅前を中心としたまちなか再生整備事業とも連携して考えていく。
- ・上諏訪駅の東口に閉店したデパートの建屋があったが、民間施設に公共施設を加えて新たなまちの核を作っていた。西口では、今まで行き止まりだった道が諏訪湖まで開通し、新たな景観が出現した。これも民間の皆さんの協力をいただいて実現した。
- ・未来にわたり心地よい、元気の出るようなエリアを作っていけたらと思っている。
- ・本当に長きにわたり、平尾委員長をはじめ委員の皆様におかれましては、熱心に、ポジティブにご協議をいただいたこと、心から感謝を申し上げますとともに、我々行政としても、民間の皆さんの力を入れながら強力に進めていくという決意を申し上げ、御礼のご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

(前田企画部長)

- ・それでは、委員の皆様から市長に対して一言ずつご意見いただければと思います。

(A委員)

- ・将来的なことを考えると、これは本当に第一歩ということだろうと思う。
- ・キーワードが二つ。一つは持続可能性ということを想定しながら進めていくこと。もう一つは対話が大事であるということ。
- ・その対話というのは行政と民間、市民、地域住民、コミュニティとの対話。対話を通じ、この地域を持続可能性という視点で作り上げていく。それはソフトだと思う。
- ・ソフトの背景には歴史があり文化があり、社会的な潮流をベースにしたある種哲学的な考えもあると思う。
- ・持続可能性と対話ということを通じ、金子市長の下でひろば活用を実現していただきたいと思っている。

(G委員)

- ・金子市長のリーダーシップとともに柔軟性、ゼロのものでもゼロでないかもしれないという発想、できないではなくてできるかもしれないという視点。その視点でこのひろばも進めていただけたら、きっと地元、県内、全国からも注目をされる場所になると非常に期待している。

(F委員)

- ・私が委員になって何かできるのかと思い、会議に参加していたが、進むにつれて産業振興は軸で、コミュニティ、観光、医療・健康が掛け合わせになるということから、私でも観光のことなら協力していけるというような感覚になった。参加させていただき、色々なことがわかり、大変なことをしているということもわかった。参加させていただいて本当によかった。期待するとともに一緒に考えていきたいと思う。

(E委員)

- ・かなりの大事業なので、ひろば全体ができ上がるには数年かかると思う。その前にここで何をするのかという検討等、この場所がなくても始められることはあると思う。それをできれば早めにやり、みんなが集まる場所があってよかった、こういうことができる場所があってよかったという状況になればよい。
- ・箱があって何をやるじゃなくて、何かをしたいからこのスペースが欲しいという進め方に

していただければいいかなと思う。

(D委員)

- ・観光という視点。産業観光ということも非常に大事なところ。今地域で産業観光にも取り組まれている。この諏訪も、そういったところに一步踏み込んできていると思っている。微力ではあるが今後もお手伝いできればなと思っている。

(C委員)

- ・今はコロナ禍にあるが、ワクチン接種が進むとそれは収束していくのかと思う。
- ・2022～2023年ぐらいになると世界の旅行需要はかなり回復するという予測がある。すると消費できなくて溜まっていた貯金が一気に噴き出してくる状況が想定される。
- ・ひろばはすぐに開発事業が動くわけではない。空いているひろばをうまく活用して、人を呼び込む、実験をしてみる、市民の皆さんでこういうことやりたいという方に実際にやっってもらうことをするにはよい時期。
- ・企業も少しやってみて上手くいったら参入しようと思えるようになれば、実際に民間活力導入に際して諏訪市が有利になる。機敏に立ち回れるとよい。

(B委員)

- ・ここ数年の諏訪市を見ると、駅前、柳並線、サイクリングロード、スマートインターチェンジ等、まちが動いている。活気がある、元気があるという印象を受ける。
- ・若手の経営者の方々は、トライアスロンをみんなで盛り上げようとしている。コロナで延期としたが、来年はそういった活動もできる。諏訪には本当に元気な経営者がいる。そういった方の意見もどんどん取り入れて、活性化につなげていっていただければと思う。

(金子諏訪市長)

- ・この諏訪圏域には磨けば輝く素材、原石がたくさんある。
- ・産業振興という言葉に少し抵抗があったというお話もあったが、産業というと観光も産業、飲食も産業。捉え方はあると思うが生業の事だと思う。
- ・SDGs、持続可能性というような考えもある。この土地の価値の一つは環境。この地域を代表するセイコーエプソンという会社も、世界に先駆けて環境対策をしている。
- ・この地域の皆さんは、環境に対する意識が高い。諏訪湖という象徴するものがあり、これを綺麗にしていこうという考えが根付いている。これを次世代に引き継ぐという視点も大切である。
- ・第六次諏訪市総合計画の将来像は「魅力の架け橋 高原湖畔都市」。標高 759メートルの高原にある湖の畔に都市機能が集積したまちで、人々や魅力がかけ橋のようにつながる。これを実現するために、イベントひろばは象徴的なものになるという気がしている。
- ・この地域には最先端の技術を持つ企業が集結している。最先端企業は世界中にあるが、数キロ以内の場所にそうした企業が集結している地域はあまりない。これは我々の一つのアドバンテージ。これを支えていくということは、意欲ある人たちを支えるということ。これは行政の責任として、しっかりやってかなくてはいけない部分。そこは中核として据えるというのが基本計画に示されたと思っている。
- ・本日は検討結果のご報告をいただくという一つの大きな節目となった。しっかりと受けとめさせていただく。

- ・委員の皆さんにおいては、今後もお気づきの点があれば遠慮なくご指導ご指摘を賜ればうれしく思います。本当にありがとうございます。

5 閉会

(前田企画部長)

- ・計画（案）については、諏訪市としてこれをしっかり受けとめて、諏訪市の計画として議会報告をし、公表していきたいと考えている。
- ・以上で、第7回諏訪湖イベントひろば基本計画専門委員会を閉会とさせていただきます。
- ・長期間にわたりありがとうございました。

(閉会 午後2時46分)